資料　4

平成 25 年 6 月 20 日発行

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第１回 合同学区別会議

平成 25 年６月 15 日（土）午前 10 時から守山市民ホールにおいて、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第１回学区別会議を開催しました。

「住みやすさ日本一」を実感できるまち守山を目指し、今後、学区ごとに分かれて、地域資源を活用した、市全体の活性化のためのプランを検討していきます。

このことから、第１回目は合同会議として、講演やパネルディスカッションを行い、活性化プラン策定の意義と検討の進め方について、みなさんで共有していただきました。

当日は学区別会議の委員の方を中心に約 200 名の方が参加されました。

■当日のプログラム

１　市長あいさつ

２　講演

(1)　『日本一のまち守山、素晴らしい地域資源』
　　京都大学名誉教授　高谷 好一　氏

(2)　『地域資源の発見と活かし方』
　　滋賀県立大学人間文化学部教授　濱崎 一志　氏

３　検討の進め方等の説明

４　パネルディスカッション　『守山まるごと活性化プラン検討の意義について』

コーディネーター：　滋賀県立大学副学長　布野 修司 氏

パネリスト　　　：　高谷 好一 氏、濱崎 一志 氏、守山市長 宮本 和宏

※ 内容（抜粋）

講演１　高谷先生のおはなし

- 守山には２つの良い点がある。ひとつは、美しい水辺や田園風景などの自然と、そこに住む人々の生き方が素晴らしい点。もうひとつは、日本一の弥生遺跡群であり国史跡指定の下之郷遺跡と伊勢遺跡が存在することである。日本の原風景であるこれらを軸に、日本のみならず世界に向けて活性化してはどうか。
- 守山には、我々日本人の歴史がある。守山を見れば日本の極相がわかるというものを作り上げるために、みんなで守山のことを一緒に考えて行ければと考えている。

講演２　濱崎先生のおはなし

- 地域を形づくる風土、歴史、自然、人も含めて地域資源として活用していくことになるが、文化財のように学術的な価値は高くなくても、普通の生活の中で人々の営みによって育まれてきたものを地域資源として見直し活用していくことが重要である。
- 高島市の針江という地区では、カバタを丁寧に調査することで文化的景観になった。集落としての景観は、決して派手ではないが多くの人が訪れている。地域資源を上手く活用して集落の活性化に活かすと、地域に対する愛着も変わってくる。地域にある歴史的・自然的なものの活用を学区別会議の中で考えていただきたい。

パネルディスカッション

滋賀県立大学副学長の布野先生をコーディネーターにパネルディスカッションが行われ、学区別会議を進める上でのアイディアなどについて討論されました。

会場からは、「地域の個性をどう活かすかがポイントであり、個性をつくることも大切である。」「プラン作成後も、継続的に市民が関心を持ち、議論を続けていくものであってほしい。」といった意見や、「50 年 100 年先を見据えての計画であるので、若い年齢層の人が参画できるように、インターネットを活用した意見募集を検討してはどうか。」と言った意見が出ました。

■ 高谷 氏

- 田園都市として美しい水辺や農村が十分に活かされ、その上で日本はもちろん海外にも開けたまちが理想である。日本人の原点は守山の弥生にあると確認したい。
- まるごと活性化プランをスタートとして、時間をかけて取組を継続することが必要である。大事なことは、それぞれが自分の持ち分で議論をすることである。

■ 宮本市長

- 守山は、都市、農村、漁村が共存しているという点で、日本でも希有な存在である。
- また、古くから琵琶湖や野洲川の恵みによる肥沃な土地、豊富な水、魚や食物に困らない土地であった。日本の中でも、こんなに住みやすいところは他になかったのではないか。歴史的にも、古代から近代に至るまでの様々な蓄積がある。琵琶湖、カバタや伏流水など豊富な自然資源も含めて、まずしっかりと整理し、地域でひとつずつ発掘していただきたい。

- プランを作成して終わりではない。作成後も継続して地域の皆さんが関わるような、将来に渡る基礎をつくる大切な取組であると考えている。

■ 濱﨑 氏

- 旧街道沿いの景観をどう活かしていくかがひとつのテーマとなる。中山道守山宿周辺に残る古い建物はかなり危機的な状況である。一度失ってしまうと永遠に復元できないため、個人所有の建物をこのプランの中で活かすことはできないかと考えている。また、琵琶湖との関わりも深いので、水路と舟運もひとつのポイントになると考えている。

- 例えば、学区別会議に学生を参加させ、外の目線を加えることも考えられる。しかし、本プランは、地域のことを一番良く知っている地元の方の意見をどう積み上げて集約するかに尽きる。

■ 布野 氏

- 全学区が参加して、市全体の活性化を考えるというのは、かなりユニークな取組で、日本一の仕組みになる可能性を持っている。
- 災害時には、コミュニティ（学区）の力が問われると思っている。今回、地域の中で議論をしていただくことは、地域の力として、ぜったいに財産になると思っている。
- 最後には、楽しい活気あるプランがまとまることを願っている。

■お問い合わせ
守山市政策調整部みらい政策課
〒524-8585 守山市吉身二丁目５番 22 号
TEL：077-582-1162 e-mail：miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp